



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/13 (月)				スポーツの日			米：債券市場休場 ：IMF・世銀年次総会
10/14 (火)	トン	▲ 10,200	▲ 10,200	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 社債等買入 1,300 ▲100		米：パウエルFRB議長がNABEの年次総会で講演
10/15 (水)	トン	+ 73,000	+ 73,000	源泉税揚げ 年金定時払い 国債発行償還（個人）	共通担保資金供給 ▲ 8,000		日：鉱工業生産（8月） 米：ページブック ：G20財務省・中央銀行総裁会議 ：CPI（9月） 欧：ユーロ圏鉱工業生産（8月）
10/16 (木)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国債発行（20年）			日：日銀の田村審議委員が沖縄県金融経済懇談会で講演 米：PPI（9月） ：小売売上高（9月） 欧：ラガルドECB総裁がIMF・世銀年次総会で講演
10/17 (金)	トン	+ 4,000	+ 4,000				日：日銀の内田副総裁が全国信用組合大会であいさつ 米：鉱工業生産（7月） 欧：ユーロ圏CPI（9月）

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比6,900億円増加し、493兆1,600億円から始まった。その後、国債買入や国債発行等の要因により増減し、10月10日は490兆100億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.460%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.530～0.610%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、10月16日に日銀の田村審議委員が沖縄県金融経済懇談会で講演、17日に日銀の内田副総裁が全国信用組合大会であいさつ、海外では13日にIMF・世銀年次総会の開催、15日にG20財務省・中央銀行総裁会議の開催などがある。

【無担保コールレート】

	予想レンジ（%）
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.55 ～ 0.65
2M	0.60 ～ 0.65
3M	0.64 ～ 0.75
6M	0.75 ～ 0.90

＜レボ＞

足許GCは週を通して+0.49%～+0.50%の狭いレンジで取引された。短国の発行があった9日、10日の取引は0.50%近辺で出合いが多く見られた。

SC取引は2年470～476債、5年155～180回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

【オープン市場】

	予想レンジ（%）
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆6,300億円で、週間償還額の1兆700億円を上回った。発行残高は、先週末時点の22兆9,435億円から、10月9日時点で23兆4,240億円へと増加した。発行市場では、小売業・建設業・不動産業・卸売業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台後半、3か月物で0.70%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は9,600億円となっている。発行市場は、祝日のため営業日数が少ないものの、資金調達ニーズは底堅く、相応の発行が見込まれる。発行レートについては、政策金利の引き上げに対する警戒感があり、引き続き水準を見極める展開が予想される。

＜TDB＞

10月9日の6M（1336回債）の入札は、最高落札利回り0.6034%（前回債0.5195%）、平均落札利回り0.5933%（前回債0.5135%）となった。

10月10日の3M（1337回債）の入札は、最高落札利回り0.4954%（前回債0.5335%）、平均落札利回り0.4901%（前回債0.5039%）となった。

来週の入札は16日に1Y、17日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。